

2015年度 「初等道徳教育論」

林 泰成

§ 7 道徳性発達理論

登録者が約240名います。
詰めて座ってください。

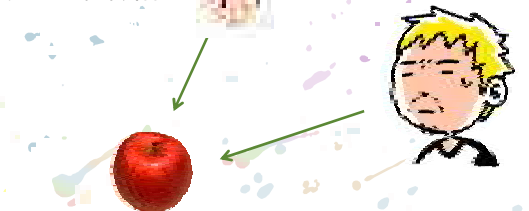
1. ピアジェの発生的認識論

哲学的認識論

おいそうを
リンゴじゃ

私たちがリンゴをリンゴとして認識できる
のはどうしてだろう？

発生的認識論



子どもの認識の仕方と大人の認識の仕方は同
じだろうか？

『発生的認識論』クセジュ文庫、白水社

ジャン・ピアジェ (Jean Piaget)

(1896年8月9日 - 1980年9月16日)

スイスの心理学者。20世紀において最
も影響力の大きかった心理学者の一人。

知の個体発生としての認知発達と、知
の系統発生としての科学史を重ね合わせ
て考察する**発生的認識論** (genetic
epistemology) を提唱。発達心理学者と
しては、「質問」と「診断」からの臨床
的研究の手法を確立。子どもの言語、世
界観、因果関係、数や量の概念などの研
究を展開した。

ウィキペディアより

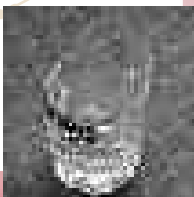


どちらがより悪いでしょうか？

A: 「ごはんですよ」と呼ばれたので、
食堂へ入ろうとドアを開けたら、ド
アの向こうの椅子の上にコップが1
5個置いてあって、それが落ちて割
れてしまった。



B: 「お留守番しててね。お利口さん
にしてるのよ」と言ってお母さんが
出かけた。その間に、戸棚の奥に隠
すかのように置いてあったジャムを
こっそり舐めようとして、手を伸ば
したら、コップに肘が当たってコッ
プが一つ落ちてわけてしまった。



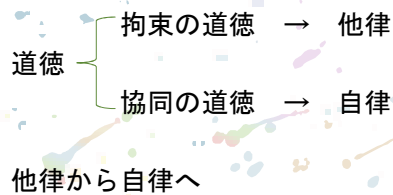
■道徳性の発達

規則の実践

- ①運動的個人的段階
- ②自己中心的段階 (2～5歳)
- ③協同が生まれる段階 (7～8歳)
- ④規則の制定化の段階 (11～12歳)
(年齢はおおよそのめやす)

規則の意識

- ①個人的な規則しかない
- ②規則を絶対的なものととらえている (4～9歳)
- ③規則を変えることができるととらえている (10歳以降)



結果説から動機説へ

2. コールバーグの道徳性発達理論

コールバーグ

ピアジェ理論を拡張

道徳的ジレンマへの反応を調査

↓ 理由付けを重視
(認知レベルを重視)

普遍的発達段階の発見

(3水準6段階)

ハインツのジレンマ

Aさんの奥さんががんで死にかかっています。お医者さんは、「ある薬を飲めば助かるかもしれないが、それ以外に助かる方法はない。」と言いました。その薬は、最近ある薬屋さんが発見したもので、10万円かけて作って、100万円で売っています。Aさんは、できる限りのお金を借りてまわったのですか、50万円しか集まりませんでした。Aさんは薬屋さんにわけを話し、薬を安く売るか、又は不足分は後で払うから50万円で売ってくれるように頼みました。でも薬屋さんは、「私がその薬を発見しました。私はそれを売って、お金をもうけようと思っているのです。」と育て、頼みをききませんでした。

Aさんはとても困って、その夜、奥さんを助けるために、薬屋さんの倉庫に泥棒にはいり、薬を盗みました。

D / T 日本版(山岸明子『道徳性の発達に関する実証的・理論的研究』風間書房)より

■ ローレンス・コールバーグ (Lawrence Kohlberg, 1927年10月25日 - 1987年1月19日)

アメリカのニューヨークに生まれる。1949年にシカゴ大学を卒業、1958年には同大学の哲学博士となる。シカゴ大学時代にはジャン・ピアジェの認知発達理論の影響を受けており、博士号取得時の論文にはその影響が強く現れている。その後、エール大学助教授、同大学准教授を経て、1968年にハーバード大学教授(教育学・社会心理学)となる。うつ病の苦痛から、1987年1月、マサチューセッツ病院で療養中に身を投げて死亡した。

(ウィキペディアより)



道徳性の発達

前慣習的水準 { ①罰と服従への志向
②道具主義的相対主義志向

慣習的水準 { ③よい子志向
④法と秩序志向

後慣習的水準 { ⑤社会契約的法律志向
⑥普遍的倫理的原理志向

第1段階 罰と服従への志向 罰を避けることや力のある人に従うことが正しいことだと考える

第2段階 道具主義的相対主義志向 他の目的に役立てば正しいと考える。ある事柄が、場合によって、正しかったり正しくなかったりする。

第3段階 よい子志向 まわりから「よい子だ」と思われたいという観点で判断する。

第4段階 法と秩序志向 法律だから絶対従わなければならない、社会秩序を維持するためにはこうしなければならない、と考える。

第5段階 社会契約的法律志向 法律も、契約によって定められたものだという発想ができる。

第6段階 普遍的倫理的原理志向 法律とは関係なく、自らのうちに普遍的な倫理的原理が確立されており、それにしたがって判断・行動する。

段階の特色

- ・ **普遍的** (universal)
- ・ **統合的** (integrated)
例「正直さは3、自由については1」ということがない。いつでも同じ段階で判断する」
- ・ **不変的** (invariant) コールバーグの提示した順番で発達する

問題点およびその後の修正

- ・ 41/2段階の導入
大学生の退行（のようにみえる）現象を説明するため
- ・ モラル・ジレンマ・ディスカッション
仮説ジレンマから現実のジレンマへ
刑務所での経験から
ジャスト・コミュニティ・アプローチへ
- ・ 第7段階（宗教的段階）の導入
なぜ正義の段階に従わなければならないか？
↓
J. Fowlerの信仰発達理論

・ 女性の道徳性発達

女性は段階が低い？

キャロル・ギリガン

『もうひとつの声』川島書店

女性の道徳原理＝**ケア**と応答の**倫理**

男性の道徳原理＝**正義**の**倫理**



3. 比較してみよう！

アメリカの心理学者・アブラハム・マズローは、人間の欲求を低次から高次の順で分類し、5段階のピラミッド型の欲求の階層によって示した。



ノーマン・ブル（イギリスの宗教教育学者）

自律
社会律
他律

ブル『子供の発達段階と道徳教育』明治図書

4. 考えてみよう！

私は、法律で定められていなくても、ひとを傷つけるような言動はよくないと思いますし、そのように行動しているつもりです。でも、**深夜の赤信号の交差点**で、遠くまで見ても、車が一台も通っていないときには、横断歩道を渡ります。こんな私の道徳性は、コールバーグで言えば、第何段階なのでしょうか？

さて、皆さんなら、深夜の交差点ではどうしますか？